

フレキシマやわ凸 症例報告 Vol.2

オーバーハングへのアプローチ： ウロストミー編

函館五稜郭病院 看護部 皮膚・排泄ケア認定看護師

仙石 真由美 先生

初めに

当院は道南医療圏における急性期病院としての役割を担っており、急性期入院主体の医療を提供している。2021年のストーマ造設は年間118例、ウロストミーが18例となっており、平均在院日数は11.6日である。急性期病院のため、在院日数は短く、ストーマケアの習得はシンプルにわかりやすい指導

を目指している。シンプルな装着として、昨今、軟性凸面の選択も多い状況の中、今回は最近発売されたビー・ブラウンエースクラップ社のフレキシマやわ凸ウロの症例報告を提示する。尚、倫理的配慮として、個人が特定されない様、配慮をしている。

患者背景

70歳代女性

- 膀胱がん膀胱全摘+回腸導管術
- ストーマサイズ：32mmの正円×高さ20mm
- 上部にオーバーハングあり
- 表面にちりめんじわあり
- 病棟で2品系CPHB 系装具を選択していた

問題点

- オーバーハング部位に凸型はめ込み具が当たり、擦れ、はがれが生じるリスクがある
- できるだけコストは安くしたい



問題点の対処方法

- オーバーハング部位に緩衝しない装具
- 2品系から単品系への変更

経過

- 用手成形皮膚保護剤は使わず、フレキシマやわ凸だけで密着した。フレキシマやわ凸の非常にやわらかい保護剤がオーバーハング部位を追従させることができたことで安定されたと考える。安定性が得られたため、補正も不要だった。患者の家事の活動を考慮し、ベルトを併用。ベルト使用による密着、固定も良くなり、安心感にもつながった。
- 入院中にストーマ装具を変更することは、時として患者の混乱を招くこともあるが、フレキシマやわ凸とベルト使用のシンプルなケアに切り替えられたことは、患者がポジティブに習得できた要素と考えられる。



症例を通して

フレキシマやわ凸は軟性凸面の中でもやわらかいと感じられたのはコンベックスリングをはじめ、保護剤、バックングフィルムがすべてがやわらかく、それらが追従性の良さにつながっている。活動量が多く、屈曲動作も多いが動きに追従しても漏れることなく、オーバーハング部位にも追従ができた。オーバーハングに収まるようにするため、カットホルの位置を調整することもあり、この様なケースではフリーカットが有効であった。また、図の様にベルトタブが長いのでしわを伸ばすことにも役立ち、タブも3か所あるところも、良かった点として挙げられる。やわらかい凸面の1つの選択肢として、有効な症例として報告する。

製造販売元

ビー・ブラウンエースクラップ株式会社

本社：〒113-0033 東京都文京区本郷2-38-16

カスタマーサービスセンター：

0120-401-741 (フリーダイヤル)

コーポレートサイト：www.bb Braun.jp